

特集

中学美術の学びを考える その2

カリキュラム・マネジメントの
核となる「美術」

形

forme



本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ!

日文 検索



令和2年(2020年)度版 小学校図画工作科 内容解説資料として扱われます。

中学生の 私の見方

生活の中にあるものや身の回りの風景などから、中学生はどのような美しさを感じているのでしょうか。今回のテーマは「見方を変えて」。いつもと違う見方をすることで生まれる面白さや捉え方の広がりなどについて、撮影し語ってもらいました。

遠い

網なので、向こうの風景は見えるけれど、透明な層があるように感じました。文化部と運動部との見えない壁が表われている気がします。大人になると、今のようにグラウンドに立つことはできないんだな。

富山県南砺市 Gさん



小 | 中 | 高 |

道脇の臆する木

山の木は高く真っすぐに伸びているのに、手前の一本だけ他の木とは違って弱々しく生えているところが面白いと思いました。周りの木は、その小さい木を見下ろしていて、おびえさせているようにも見えます。

兵庫県佐用町 Mさん

形 forme No.320-2020

日文教育資料 [図画工作・美術]

令和2年(2020年)2月25日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33495

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18 7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

「forme」は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として、一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。「forme」という書名は、造形と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。

Index No.320

- ② 特集 中学美術の学びを考える その2
カリキュラム・マネジメントの核となる「美術」
- ・美術科が秘めた大きな可能性 松原雅俊
 - ・学習指導要領・ここをチェック 村上尚徳
 - ・美術科×SDGs 名古屋市立本城中学校 原 淳子
 - ・美術科×朝鑑賞 所沢市立三ヶ島中学校
 - ・美術科×教科等の連携 熊本市立三和中学校
福岡教育大学附属小倉中学校
横浜市立旭中学校
 - ・私たちは「けっこういいこと」をやってきた 奥村高明
- 14 村上センセイが行く！ 全国美術室探訪
|第7回| 静岡市立清水第七中学校 山竹弘己
- 16 インタビュー
伝統工芸士 三代目清茂(八重樫 亮)
- 19 ミュージアム・エデュケーションのトピラ
京都国際マンガミュージアム ユー・スギョン
- 20 学びのフロンティア(小学校)
カラフルいろみず 高橋英理子
- 22 子どもの見方
|第8回| 絵の具スケッチ 奥村高明
- 24 学びのフロンティア(中学校)
伊藤若冲で遊ぶ～動植絵の世界～ 湯口みゆき
- 26 そぞろみ部
|第12回| 桃太郎 文:市川寛也 イラスト:今井未知
- 28 まず見る
|第23回| 見過ごすワケを考えてみる 成相 肇
- 30 「小学校教科Web」「中美(チュービ)」
図画工作・美術の特設 Web サイトを紹介
- 31 ABC PICK UP
阿部宏行
- 32 生徒作品解説 中学生の私の見方

アートディレクション: 清水 一(東京矢印)
編集・ディレクション: 山本武義(東京矢印)
デザイン: 東京矢印
表紙写真: 千葉大輔
特集テキスト: 坂井 修、小安英輔、秋山由香(Playce)

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。
例: | 小 | 中 | 高 | 特に中学校に関連の強いコーナーを表します。

カリキュラム・マネジメントの

特集

中学美術の学びを考える

その2

核となる「美術」

私たちの生活は、この十年で大きく変化しました。デジタルカメラやテレビ、音楽プレイヤーなどのツールはスマホにとって代わり、電子マネーによるキャッシュレス化は社会の構造や経済すら変革させました。Society 5.0という新しい社会概念、日々進化するIoTやAIは、今後の十年をより急速に、より多様に変化させるでしょう。予測不可能な時代を子どもたちが自分の時代として生き抜いていくために、これからの学校教育に必要なもの。それが実社会に対応できる、教科等を横断したカリキュラム・マネジメントであり、美術科はその核となる教科であると、私たちは考えます。

× SDGs

美術科だから育める、子どもたちのSDGs



#社会とのつながり
#持続可能な開発目標
#Society5.0
#美術科の定番題材とSDGs

📖 P6-7

× 朝鑑賞

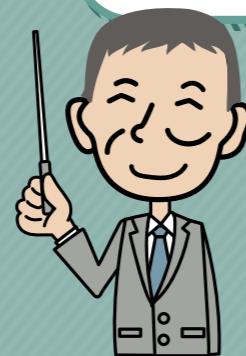
週1回、10分間の鑑賞で学校が変わる

#人のつながり
#安心して発言できる環境
#ファシリテート力
#思考力の向上

📖 P8-9

美術科が秘めた

大きな可能性



#カリマネの中で生きる美術の強み
#授業・人・社会のつながり
#学習指導要領 総則

📖 P4-5

× 教科等の連携

美術科が結ぶ教科等横断的な学び

#授業のつながり
#教科等の学びを高め合う連携

📖 P10-12

× 社会科
× 音楽科
× 修学旅行(特別活動)

#知識の共有
#修学旅行
#仏像の鑑賞

× 社会科
× 理科
× 外国語科(英語)

#4教科横断
#地域創生
#パッケージデザイン

× 進路指導(特別活動)

#自己の成長を見つめ直す
#面接シート
#抽象彫刻

私たちは「けっこういいこと」をやってきた

#アートブーム
#これまでの美術教育
#これからの美術教育

📖 P13



美術科が秘めた

大きな可能性

カリキュラム・マネジメントの中で美術の強みを生かすには、どのようにすればいいのでしょうか。新学習指導要領を基に横浜市のカリキュラム・マネジメント要領作成に携わった松原先生に伺いました。

横浜国立大学大学院
教育学研究科
高度教職実践専攻(教職大学院)教授
松原 雅俊

2019年3月まで、横浜市教育委員会事務局にて教職員育成課長、教育課程推進室室長など歴任。現在、横浜国立大学教授、附属横浜中学校長を兼任。



授業、人、社会のつながりを つくるのがカギ

新しい学習指導要領では、大きな改革がなされました。子どもたちが未来を生きていくために必要な力を三つの柱に整理し、それらを育むために何をするかという「資質・能力ベース」の考え方が変わったのです。そして、この改革によって急務となったのが、教育の質を向上させ、学びの効果を最大限発揮させるための「カリキュラム・マネジメント」の確立です。

カリキュラム・マネジメントの基本となるのは、教科ごとの授業内容です。しかし、実社会は教科別には構成されていません。そのような社会に対応するためには、教科等横断的な視点から授業のつながりを考える。また、家庭や地域社会などと教育の目標を共有することで連携・協働する人のつながりをつくり出す。といった幅広い組織運営のもと、教科等の学びをさらに豊かなものにしていく必要があります。

幅広く組織運営をしていくには、子どもたちが安定した気持ちで学習に取り組めるようにするための生徒

指導は欠かせませんし、多様な状況にある子どもたちを組織的に支えるインクルーシブ教育や、小中学校間のつながりを意識した教育活動の工夫も必要になります。

そうすると、こうした教育活動を実践する教職員が安心して、必要な教育活動に時間と労力を注ぐことができるように、会議や行事、部活動の在り方などを抜本的に整理していく働き方改革もまた、組織運営の面で欠かすことのできない要素です。

大切なのは、子どもたちが未来を生きていくのに必要となる力を育むために、主体的・対話的で深い学びがなぜ必要なのかという視点から学習指導の改善を行うことです。そして、学習指導と生徒指導の融合的な関係性をしっかりと捉え、子どもの自己肯定感を高められるカリキュラムを学校の特長や課題に合わせながら設定することで、子どもたちを自発的に自分づくりができるような学びに向かわせていくことだと思います。

これからの時代に生きる 美術科の可能性

子どもたちが自発的に自分づくり

ができる学び。それを今までずっと実践してきた教科が美術ではないのでしょうか。

Society5.0という新しい社会概念や、SDGsに象徴される国際的な課題解決の時代。予測不能な社会を生きる子どもたちが、他者とともに乗り越えていくための基盤的能力として、学習指導要領の中で特に重要とされているのが、

- ・問題発見・課題解決能力
- ・情報活用能力
- ・言語能力

といった三つの能力です。これらは、幼児期から小学校までのさまざまな経験に基づいて中学校三年間という発達の段階に即した授業・人・社会とのつながりを生かして、教科等横断的に自己を成長させる中で育成を目指す能力です。

そして美術科において子どもたちは、絵や彫刻などの自己表現、デザインや工芸などの適応表現、それぞれに関わる鑑賞を組み合わせた幅広い授業の中で、形や色彩を深く味わい、造形的な視点を洗練させながら、他者との関わりの中で自分を見つめることができます。そこで展開される美術

の学びは、たくさんの方の正解を蓄積するための硬く形式的なものではなく、多面的・多角的に最適解・納得解を模索することです。子どもたちは、形や色彩を駆使するチャレンジの過程で、「知識や技能」を更新したり、イメージとの多様な関わりの中で自他の考えを交流させながら「発想や構想する力」を高めたりすることを通して、未来を生きる基盤を形成していくのです。

美術の学びでは主題を探究する過程で失敗を繰り返しながら試行錯誤したり、課題解決に向けて現実に合わせて何度も計画を修正したりしたことを振り返り、自分の学びを客観視することができるようになります。さらに、困難を乗り越える柔軟性や粘り強さ、他者に対する優しさも育まれていくのだと思います。

美術の先生の使命は、そうした時間と空間をつくり、心が震えるきっかけを子どもたちに提供してあげることではないでしょうか。

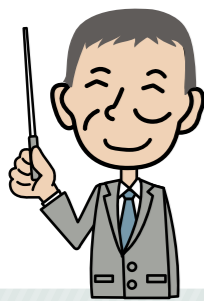
教科を結び核となる美術の学び

美術の強みとなるのが、教科等横断的な連携が実践しやすいことです。美術は、実際に手や身体を動かしながら

ら表現する学びの中で、他教科での学びをも子どもの中で統合し、形に表すことができる教科です。例えば、美術作品の鑑賞において自分の思いを言葉や文章で表現したり、また他者の考えを読み解いたりする活動は、国語の学びとの深いつながりがあります。さらに伝統文化を題材にした学習は、道徳との連携によって、より深い学びを創出できるなど、他教科の学びを生かしながら双方の教科の特性を生かすことができます。

今、カリキュラム・マネジメントに求められているのは、学校全体で育てようとしている子どもの力と教科目標の重なりを考えて題材をつくり、単元を開発していくことです。それは、美術の先生たちにこそ、必要なことではないでしょうか。さまざまな連携に積極的に取り組むことによって、子どもたちが感性を育み、深い学びが実現できるような場を是非つくってほしいと思います。

実際の教育現場でどのような取り組みが行われているのか、見ていきましょう。



ここをチェック

学習指導要領

中学校学習指導要領 第1章 総則(平成29年告示)

新しい学習指導要領では、各教科の学習を核とし、他教科と関連付けたり、生活や社会と結び付けたりしながら、学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められています。そうした「カリキュラム・マネジメント」の成果を十分生かすためには、個々の生徒に対して、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力等を培うことを併せて行う必要があります。そこでは継続的に粘り強く取り組むことだけでなく、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯

誤するなど、学習を調整しながら改善していくことが重要です。美術科は、他教科との関連や社会や文化との関連を図った学習に取り組みや、また、発想・構想したことや技能を動かしたことなどが作品として可視化されるため、学びの成果を振り返り自己改善しやすい教科であると言えます。



IPU・環太平洋大学副学長
次世代教育学部教授
村上 尚徳(むらかみ ひさのり)

× SDGs

美術科だから育める、子どもたちのSDGs

名古屋市は「SDGs未来都市」に選定され、ESD(持続可能な開発のための教育)を基本に学校現場におけるSDGsの達成への取り組みが推進されています。その取り組みと、美術科が果たす役割について、原先生に伺いました。

大切なのは「知る」こと

SDGs(エスディージーズ)とは Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。(※次ページの図参照)いまや、世界の共通言語と言ってもいいでしょう。国内では、主に行政や企業の目標として掲げられ、既に多くの取り組みがなされていますが、それが学校現場でも教育活動のテーマとして掲げられることが多くなってきました。しかし、学校現場で「SDGs達成に向けた取り組みをしよう!」としても、SDGsの理念を細分化して子どもたちに

実感に伴い納得させることは、容易ではありません。

ただ、十七の目標の中でも「平和・人権・環境」といった観点は学校現場において大切なテーマになります。ですから、学校現場でできることとして「ESDを参考に、教科等横断的に環境について考えたり、国際理解を深めたりするカリキュラムを通し、自分たちが当たり前だと思っている平和で美しい世界がいかに多くの人々の努力で成り立っているのかを「知る」ことで、その世界を守り続けながら発展させていこう」という思いを子どもたちの中に育んでいくことではないかと思えます。最終的な目標はSDGsですが、そこに至るまでの過程で、いかに子どもたちが実感し理解してくれるかが重要なのです。

日々の教育活動がSDGsにつながっている

我が校では、身近な課題を解決する経験から、それらが世界の課題につながっていることを学べるような取り組みをしています。例えば名古屋市の「なごや-NGキャンペーン」では、児童生徒一人一人がはじめをなくすための行動宣言を考え、学級の目標としてま

美術教育の目標はSDGsのかかげる目標と重なる

子どもたちの意識や生活の中にSDGsの理念が溶け込んでいて、自然に行動に現れてくることを願うならば美術という教科は、とても大きな役割を果たすことができます。



を果たすことができます。

美術科は、造形的な活動に主体的に関わっていく中で、豊かな感性や新しい価値を創り出す能力を育み、人格の形成を目指す教科です。実はSDGsの最終的に目指す方向と、ベクトルが同じなのです。むしろ私の実感としては、以前より取り組んできた、造形教育で育成を目指してきた子どもたちの姿が、世界の目標と重なったように感じます。

もちろん他の教科でも重なりはありますが、society5.0に向けた人材育成のため、文部科学省が報告書の中で、日本の強みとして示している

・緻密で洗練されたものづくりの技術
・独自の文化的創造力
・日常的な営みや自然にまで美や崇高さを感じ取る美意識

などは、すべて主に造形教育で培われる力であり、他教科では追従できないものです。日本にこれから期待されている姿とは、こういった強みを生かして、子どもたちの人格形成をしていくことであり、それが遂にはSDGsを達成し、持続可能な社会を実現することにつながるのだと考えています。

さらにSDGsの十七の目標と美術の題材を結びつけると、学びが広がる



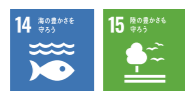
と思いませんか。子どもたちに「造形的な見方・考え方を明確化した「学習のねらい」を示すことで、発想の幅や、課題解決の方法が広がると思います。学校はチームです。各教科の先生、家庭や地域社会などと同じ思いをもって歩いていくために、美術科の先生には「ご自身の取り組みで生徒にどのような力がつくのか、美術の見方、考え方や、造形的な視点がおかを、周囲の人に積極的に発信し、美術の学びを核にして広げてほしい」と思っています。

持続可能な開発目標(SDGs) 2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際開発目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。

これまでに授業で取り組んできている馴染みの題材にも、こんなにSDGsが絡んでいます。

「見て感じて描く」

身近な題材のスケッチでも、14や15の観点で対象を見つめると、感じ取る形や色彩に変化が生まれるかもしれません。



▶平成28年度版中学校美術教科書「美術 1」p8・9

「情報をわかりやすく伝えよう」

安心して豊かな暮らしのためのサインなら3や7など、持続可能な社会に向けたサインなら5や11、12などの観点を生かすことができます。



▶平成28年度版中学校美術教科書「美術 2・3上」p38・39

「ゲルニカは語る」

戦争への嘆きや怒りについては10や16に関連し、世界の問題に目を向けると13、14、15など多様な視点が生かれます。



▶平成28年度版中学校美術教科書「美術 2・3下」p30・31

「伝統の中の動物たち」

人々の祈りや感謝など祭りの起源を紐解けば、2や3に関連し、祭りを通してその土地の風土について知ることは14や15にも繋がるかもしれません。



▶平成28年度版中学校美術教科書「美術 1」p48・49

「豊かなイメージで伝えよう」

テーマによりほぼすべての観点到達してあり、作品の素材に目を向けると12にも関連を見出すことができるかもしれません。



▶平成28年度版中学校美術教科書「美術 2・3上」p40・41

「デザインで変える現在と未来」

地域や社会の課題解決という視点で作品意図を読み取ると、ほぼすべての観点到達して多様な関連性が見えてきます。



▶平成28年度版中学校美術教科書「美術 2・3下」p46・47



教科を問わず、全校教員で取り組む朝鑑賞。生徒や先生にどのような変化が現れたのでしょうか。

〈生徒が変わった!〉



数学科 関根 将志先生

絵を見ながら考える力は、
図形の読み解きにもつながる

朝鑑賞を行うときに心掛けているのが、できるだけ優しく、柔らかく話すこと。普段は厳しめの態度で生徒たちと接しているのですが、朝鑑賞のときはリラックスして、気楽に話せる雰囲気をつくるようにしています。また、ポロツと出てきた発言や、何気ない感想を拾うこと、そこから対話を広げることにも意識しています。これらを実践することで、「言ったことを拾ってもらえる」「否定されない」「なにを言っても大丈夫だ」という安心感が生まれ、さらに発言が活発になり、見方が広がって……。気が付いたら、数学の授業でも多くの質問が出てくるようになりました。絵を見ながら考えるという力は、図形を読み解く際や作図をする際にも役立つのではないかなと期待しています。

保健体育科 佐藤 彩弥先生(研修主任)

多数決から話し合いへ!
対話し助け合う心が育つ



朝鑑賞を始めたことで、子どもたちの「人との関わり方」が変わりました。以前は意見が割れるとすぐに多数決で解決してしまっていたのですが、他人の意見を尊重し、諦めず、「もう一回、話し合おう」というように。体育の授業でも、作戦を話し合ったり、運動が苦手な子をフォローしたりと、対話し支え合うことが増えてきたように思います。教員側の変化でいいなと思ったのが、職員室での会話が増えたところ。朝鑑賞という新しい取り組みに、悩み、対話しながら取り組むことで、さまざまな先生が教科を超えて気軽に話し合うようになりました。今、求められているのは、子どもたちの意見をよく聞き、つなぐことができる、ファシリテート型の教員です。朝鑑賞は、時代に即した教員の育成にも役立つと思っています。

〈先生が変わった!〉



国語科 加藤 拓海先生

発問の工夫で
生徒の想像力をかきたてる

朝鑑賞を始めたばかりの頃はファシリテートがうまくできず、10分間がとて長く感じました……。が、これまで読まなかったような鑑賞の本を読むなどしつつ、試行錯誤するうちに、人の意見をつなげて展開するということができるようになりました。10分間が、あつという間の楽しい時間になっていくと感じています。発問をするときに心掛けているのが、想像力をかきたてるような問いを投げかけること。「この絵からどんな音が聞こえる?」「季節は?」「それはなんで?」といった質問をよくしています。こうした質問を繰り返すことで、生徒たちが、日常生活や国語の授業のなかでも、出来事や感想だけでなく、その根拠を話してくれるようになり、文章力、表現力も上がってきたと感じます。

理科 小林 誠先生

「答えがないものは怖い」から
「答えがないから面白い」へ!



始める前は「自分にファシリテートができるのだろうか」ととても不安でした。しかし、よく聞き・対話するという朝鑑賞の活動を通して、「口下手な私が、うまく話せるようになってきた」と実感しています。「答えがないものを扱う恐怖」もなくなり、「答えがないからこそ面白い!」と感じるようになってきたことも収穫です。もう一つ、大きな変化だと感じるのが、生徒の発言を待てるようになったところ。事前の研修で「子どもは黙っている間に考えている」と聞いて、沈黙を恐れる気持ちになくなりました。これによって、発言が少ない子の言葉が聞く機会が増えたと感じています。朝鑑賞は、生徒だけでなく教員が大きく変わる、とてもよい活動です。これからも長く続けていきたいと思っています。

× 朝鑑賞

週1回、10分間の鑑賞で学校が変わる



所沢市立三ヶ島中学校 校長
沼田 芳行(ぬまた よしゆき)

埼玉県中学校社会科教諭、主幹教諭、所沢市立美原中学校教頭、所沢市教育委員会教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長を務め、2015年より現職。



多様な価値観に触れ、認め合う力を育むため、所沢市立三ヶ島中学校が行っているのが朝の美術鑑賞です。取り組みにより、生徒や先生、学校全体はどのように変わったのでしょうか。

鑑賞を通して
多様な価値観に触れる

金曜日の朝、各教室に絵画が運び込まれ、それを見た生徒たちからは歓声があがります。先生の「どのように感じる?」という問いかけから、人物の表情、背景、色合いなどさまざまな事柄に注目し、気付いたことや感じたことを生徒たちは口々に述べていきます。「決して生徒の意見を否定することなく、自由に安心して発言できるような場をつくるのがポイント。」

美術の力で学校が二つに

朝鑑賞は二〇二六年度にスタートしました。毎週一回、金曜日の朝の二〇分間、全学年、全クラス一斉に美術作品の鑑賞を行います。鑑賞する作品は、近隣の美大や芸術総合高校と提携し、作品を借り受けて定期的に入れ替えをしながら活用しています。「朝鑑賞は、「生徒が通いたくなるよう



朝鑑賞の作品は、保管している教室から各先生が選んで持って行く。

な楽しい学校をつくりたい』『教員のファシリテート力や生徒の思考力をアップさせたい』という二つの目的で、先生全員が関わることができるよう朝の10分間に活動を行うことにしました。活動を始めて少し経つと、気軽に発言できる雰囲気ができあがり、生徒たちがどんどん意見を言えるようになりました。生徒と先生の距離がぐんと近づきました。また、教員が教科横断的に研修を行ったことで、教員間の意思疎通も円滑になったと感じます。対話を通じた鑑賞の方法などを学びながら、みんなで試行錯誤しつつ活動をつくりあげたところがよかったです。苦労もありましたが、一体感が生まれ、学校全体の雰囲気も驚くほどよくなりました。結果として、学力テストにも反映されてきていると感じています。(沼田校長)

生徒、先生が、ともに対話力と思考力を磨き、二つになって成長していく――。美術の学びには、学校全体を変える力があるとさえ言えます。



美術の活動が、同時に子どもたちの言語能力を鍛え、先生たちの成長にも結び付いています。

美術科 × 社会科 × 理科 × 外国語科(英語)



福岡教育大学附属小倉中学校

『お土産品のパッケージデザイン』



実践の概要がwebよりご覧いただけます。

カリキュラム・マネジメントの研究の一環で、北九州市産業観光センターからの地域創生に関する依頼「北九州市産業観光を盛り上げよう!」をテーマに、4教科にわたる横断学習

を実施。社会科では八幡製鉄所関連施設などの産業観光遺産に関する学習を通じて明治時代の政策を見直し、新たな視点を得る一方、理科では夜景を彩る電気器具に蛍光灯やLED電球が使われている理由を実験結果から科学的に説明し学習しました。それらの知識を美術科のパッケージデザインや外国語科の名所紹介文・VTR撮影に反映し、完成した作品をもって北九州市産業観光センターに提案しました。

自分たちが住む地域の実態や将来のあるべき姿を教科等横断的に捉え、今後の地域創生活動に貢献する姿勢を育成することができました。

Table with columns for subjects and content related to package design.

↑ 発想を広げるためのマングラートも作成



文明開化といえば「文化が花開く」イメージだったので、周りを花のモチーフでいっぱいになりました。花や建物を目立たせるために空は群青色にしました。



× 教科等の連携

美術科が結ぶ 教科等横断的な学び

それぞれの形で積極的な教科等の連携を行う三校の取り組みを紹介。美術科は教科等横断的な実践をする際の結び目となり、各教科の学びを高め合うのに役立ちます。先生に求められる姿勢や生徒に表れた成果など、現場の声をお聞きました。

美術科 × 社会科 × 音楽科 × 修学旅行(特別活動)

熊本市立三和中学校

『仏像の鑑賞～知ると楽しい仏像の世界』



ワークシートがwebよりご覧いただけます。



修学旅行を控える中学2年生を対象に、仏像鑑賞の授業を実施しました。仏像の魅力やさまざまなアプローチで伝え、鑑賞する目を養ってほしいと考えたのがきっかけです。

授業では如来と菩薩をはじめ、阿修羅像、金剛力士像などの作品を鑑賞。社会科では鎌倉時代の学習を、音楽科では勸進帳の鑑賞を行っていたので、知識の共有がはかれるよう工夫しました。その体験を経て、修学旅行で本物の仏像鑑賞へ。

導入で東大寺南大門の金剛力士像を鑑賞した後、三十三間堂の仁王像と比較鑑賞。与えた問いとともに

自分の見方や感じ方を深めながら、造形的な視点で仏像の美しさや作者の意図、表現の工夫などについて主体的に考え、ワークシートにまとめました。



鑑賞図を作成することで思考の過程を振り返るように。

美術科 永瀨 かおり先生

他教科での学びから得た考え方を生かし、「デザインに必要な構成要素(レタリング、配色、キャッチコピー、モチーフ)を工夫。美と機能性の調和を意識して発想する能力が高められただけでなく、他教科の学びを美術の視点で思い起こし、造形的な見方や考え方に結び付けて表現することもできました。生徒たちからは「他教科のファイルや資料を持参してもよいかな」「同じモチーフのグループ同士で意見交換をしたい」など、他教科での学びをもっと深め、よりよいものをつくりたいという意欲が感じられ、学びへの興味・関心につながったと感じています。ですが、生徒が他教科での学習を生かすためには、まず教師がそれらの学びを把握する必要があります。教師間での情報交換や生徒同様の知識をもつことが求められるという実感ももちました。

積極的な他教科連携で表現力の向上へ

外国語科 田中 誠先生

外国語科の授業では習得できない知識を活用し、北九州の名所紹介文を作成できました。さまざまな視点から北九州を見つめ直したことで市民・県民として主体的に発信する姿勢やグローバル意識の向上も見られました。

理科 山村 勇太先生

日常の景色から思考を広げたことで産業観光についてより深く考えることができました。また、「理科で得た知識を美術のデザインにどう生かそうか」など、生徒が意欲的に取り組むことができました。

社会科 元重 雄平先生

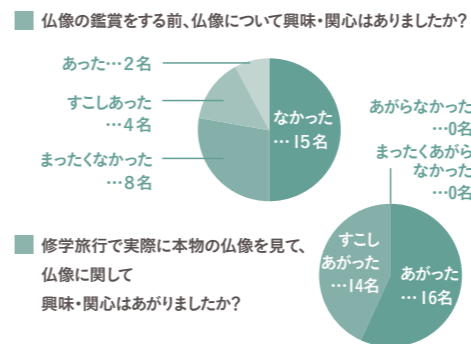
産業観光遺産の存在や価値、明治維新期の様子や環境都市に至る歴史を生徒たちは身近に感じられたと思います。さらに生徒からは「観光」と「産業観光」の違いは？ など主体的に学ぶ姿勢も浮かびました。

美術科 村田 崇先生

知識の共有で高め合う教科の学び

他教科での取り組み方を考えることで、生徒たちが社会科や音楽科の授業で得た知識を想定しながら授業を行うことができました。修学旅行前から生徒たちは実物を見るのを楽しみにしていましたが、鎌倉時代の武士の生活や文化的特徴、東大寺の修復と歌舞伎の勸進帳とのつながりなど、他教科の視点をもって金剛力士像を目にした時、今までも身近なものとして鑑賞できたのではないかと思います。今回の鑑賞は、修学旅行をより実りあるものにするためのテーマでした。しかしそのためには、生徒たちには何を掴ませたいのかを意識することが大切だと強く感じました。積極的に教師同士で交流し、他教科での取り組みを普段から知ることは連携の第一歩です。知り得た情報を生かすには、教師たちが強く各教科との連携を意識しておくことが重要ですね。

熊本市立三和中学校2年生 30名アンケート



仏像から、つくられた当時や歴史を読み解くのが面白くなった。

仏像の形や色やポーズの意味などに興味はわくようになった。

修学旅行でも、美術の時間の鑑賞のように感じたことから、それに関連するものに目を向けていった。

私たちは「けっこういいこと」をやってきた

日本体育大学
児童スポーツ教育学部 教授
おくむら たかあき
奥村 高明



写真：川瀬一絵

美術教育の「青い鳥」

海外のアートブームが日本にもやってきました。ビジネスや人材育成などでアートが活用され、教育界でもデザイン思考やSTEAMなど美術教育に対する期待が高まっています。社会全体がアートや美術教育に注目しているのです。

一方で「美術教育は問題解決の道具なのか？」という声があります。確かに

美術が混迷を溶きほぐす唯一解のようには述べられることには戸惑いを感じます。また、「アートはビジネスに役立つ」という功利的な主張や、「感性」こそ重要、「美術は必須の教養」などこれまでの説明を繰り返す姿勢にも疑問が残ります。それらは、過去に十分な説得力をもてませんでした。

とはいえ、おそらくアートブームは一過性ではなく、今後、文化や社会の質などに関わり、美術はますます必要になるでしょう。美術教育は、一人一人の生き方と深く結び付いて重要度を増すでしょう。その端緒が今であり、それは歓迎すべきだろうと思います。

何より、私たちは「けっこういいこと」をやってきたのです。生徒一人一人が絵を描く、粘土をこねる、デザインを考える、その行為や活動は理屈抜きに必要なことです。子どもが自分の思いを実現する時間と場所は保証されるべきです。これまで行ってきた当たり前の美術教育にこそ意味があるのです。

そのために、私たちは、授業研究をして、研究会に参加し、指導の改善を

続けてきました。さまざまな教材や題材を開発し、作品展などを通して保護者や地域とつながってきました。子どもと社会のために歩み続けた歴史が、今日の二つの「授業」に結実しているのです。

「一人一人の子どもの思いを大切に授業する」。それが美術教育の目指してきたことであり、それを守ってきた私たちの実践に自信をもつべきだと思います。そのうえで「子どもが発揮している力を明確に捉え、題材を実践する」「社会と目的を共有し、開かれた美術教育を心掛ける」「美術教育の現代的な意味を見付ける」などが求められるのです。

「青い鳥」は、いつも身近なところにいます。自分たちの足元を見つめ、未来を目指す、その姿勢が重要だろうと思います。



× 教科等の連携

美術科

× 進路指導 (特別活動)

横浜市立旭中学校

『自分を彫る』



ワークシートがwebよりご覧いただけます。

進路指導とからめ、年末の面接シート(神奈川県公立高校受験出願時に提出)を書き始める前の中学3年生に、「自分を彫る」という石彫で抽象彫刻を彫る授業を実施。

導入時にパワーポイントやプリントを使用し、抽象彫刻についての理解を深めます。また、最終的には抽象彫刻における学びを面接シートに役立てることに触れることで、生徒が活動の見通しをもてるようにしつつ、生徒の意識を高めていきます。

作品が完成したあとの鑑賞の時間には、担任の先生をお誘いし、発表の様子を見てもらうとともに、毎時間の生徒とのやりとりが分かる「記録カード」を面接シートの記入開始前に共有し、進路指導に生かしてもらえるよう工夫しています。

授業の後には生徒たちにアンケートを実施し、連携の効果を確認しました。



【記録カード】自分自身への理解が深まっていく過程がよく分かる!



【導入シート】

【面接シート(見本)】

生徒の声 取り組んでみてどうだった?

自分自身について考えたり、他の人に聞くなんてめったにしないし、やろうとしても恥ずかしくてできないので、美術の授業の中でやってもらって、自分自身についてよく考えられた。

初めは正直、自分を深く知ったり、見つめ直すのが嫌だったが、美術で授業と結び付けて考えてみて、案に自分を見つめ直せた。

友達に、喜怒哀楽が激しいって言われなかったら、多分この形にはなっていないと思う。

友達に自分のよい点を言ってもらうことで、自信にもつながり、面接シートにも自信をもって書くことができた。

「自分って何だろう」と考えるきっかけになったし、生きている意味や将来のことなども考えるきっかけになった。

美術科 長谷川 聡先生

自分自身や成長を見つめ直すきっかけに
高校受験を控えた三年生の実態に寄り添った活動ができ、そこで感じ取ったことや考えたことなどをもとに主題を生み出す、といったことを十分に生かすことができたと感じています。

生徒の考えを記載した記録カードのやりとりにより、中学生活における自分の成長を振り返られる様子や、題材に対する考え方が深まっていく過程などがより分かりやすく伝わってきました。また、生徒たちのアンケート結果からは、改めて自分自身を見つめ直し、面接シートへ反映できたという声も聞かれ、担任の先生からは「面接シートを書く前にこのような取り組みをしてもらえて、生徒たちが自分について考えるきっかけになりました」との言葉をいただき連携の手応えを実感しています。

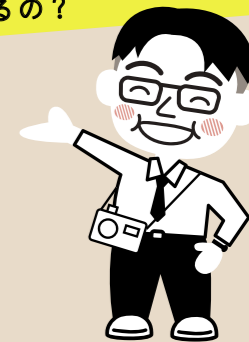
教科等のつながりを生かした授業デザインや、学ぶことに対する子どもたちの自覚を高め、深い学びを引き出していきます。



村上センセイが行く!

全国美術室探訪

隣の中学校は何をしているの?



美術教科書著者である村上尚徳先生が全国の美術室を訪問。
“村上先生視点”で、現場の工夫や先生方の美術教育への思いに迫ります。

▶授業中はストップウォッチで時間を測り、活動を短時間で切り替える。授業にリズムを生み、生徒の集中力を引き出すためのアイデア。



▲文字がもつイメージを絵画的に表現する「創作絵文字」の参考作品は、生徒作品からセレクト。さまざまな着想に、生徒たちも興味津々。

▲創作絵文字の掲示では、文字の装飾、文字と絵の融合、文字の世界観など表現手法を3パターンに分類。発想のヒントを分かりやすく明示する。

▶『トンネルの向こうに広がる世界』は、班員が考えたトンネルの設定を聞き、その先にある世界を想像して描く。他人の言葉から自らのイメージを膨らませて描くのがポイント。

第7回

静岡市立清水第七中学校

山竹 弘己 先生

タイプ別に分類した掲示物で広がる発想。美術を軸に人・地域とのつながりを提案!

集中力が続く小刻みの活動でより多くの発想を引き出す

村上 今日是一年生の授業を見学させていただきましたが、課題に入る前に映像作品を鑑賞していましたね。

山竹 映像の力は大きいので、授業の前にその日の課題に関連した短い映像を観ます。今日の題材『トンネルの向こうに広がる世界』は、トンネルの向こう側の世界をイメージして描くという映像的なイメージ力を鍛える課題なので、NHK『TECHNIE』のジェリービーンズ・アートを観てもらいました。

村上 トンネルの向こうの世界も、単に想像した世界を一人

黙々と描くわけではないですね。

山竹 四人班で、一人の班員が自分のトンネルの設定を発表し、その向こう側の世界を四人それぞれが自分なりに想像して描きます。その活動を、一人十分の間隔で刻みながら四セット行います。

作品を描き上げる生徒の発想力を育てるために、自ら発想する場面をもっと増やしたい。また、子どもの集中力が続くのは十五分程度だということ踏まえ、活動時間を短く区切って授業にリズムをつくりたい。そうした考えから、短時間でより多くの作品づくりに取り組む、発想力を育てることに重点

を置いた授業にしています。

着眼点を整理した掲示物が生徒の発想力を引き出す

村上 生徒の発想を引き出すための工夫は、美術室の掲示物からも感じますね。

山竹 美術室にはポイントとなる教材などを、カテゴリー別に分類・整理して掲示しています。たとえば、基礎となる「レタリング」から「創作絵文字」、複数視点や遠近法については「浮世絵の影響」、作者の思いや表現については「ゲルニカ」という具合です。また、参考作品もタイプ別に類型化し、発想のパターンを明示するようにしています。

村上 着眼点を分類・整理して掲示することで、生徒に気付きの場を提供しているのですね。

山竹 私がこの美術室で目指しているのは、生徒が楽しみながら、授業や休み時間に美術室で過ごす中で、自然と視点や発想の幅を広げてもらうことです。美術にはいろいろな表現があっというんだ、他人と違っていいんだ、と気付いてもらうことが大切で、そのためにも、生徒が見て分かる、納得できる資料を掲示することが大切だと思っています。

人や地域とのつながりから自己肯定のチャンスを提供

山竹 美術を通じて生徒が自己肯定に至るには、まず、自分の曖昧さに気付くことが大切です。誰もが「愛は大切」「友情が大事」というけれど、それでは愛って何? 友情って何? と問いかけるとすぐには答えられない。普段何気なく使っている言葉の曖昧さに気付くと、自分を客観視できるようになります。そうした体験から自分と他人、自

分と社会とのつながりにも気付いてもらえると思うのです。

前任の中学校では、地域の商店街や企業と連携し、土産品などを生徒が企画製作してプレゼンテーションする授業を行ってききました。顧客の言葉をしっかりと理解し、売り手や買い手の気持ちを想像しながら自分の考えを自分の言葉で伝えなくてはならない。でも、ニーズに応えるアイデアを提案できれば、地域の

人や社会と喜びを共有できます。

村上 学校の美術が地域や自分の生活の中にある美術とつながり、生涯にわたり美術を愛好する心を育むことができますね。

山竹 自ら発想する楽しさと難しさを実感し、美術をきっかけに人とつながり、社会とつながる。その体験と成長を、ぜひ本校の生徒たちにも中学生という大切な時期に味わってもらいたいと考えています。

探訪を終えて...

発想力を高めるためには、発想するための多様な視点や考え方を知ることが重要です。本授業では、生徒の発想力を育てるために、四人の班員一人一人が考えたトンネルの向こうの世界のテーマを基に、各自がそれぞれアイデアスケッチを短時間で描いていました。各自が描いた四通りのスケッチを紹介し合うことで、「こんな考え方もあったんだ」とお互いの発想の視点や考え方を学び合い共有できるように工夫されていました。

今日の一枚 /



短時間で発想をし交流することで、発想の視点や考える力を育てる。

対談の動画は、日文チャンネルでご覧いただけます。



むらかみ ひさのり
村上尚徳
IPU・環太平洋大学副学長
次世代教育学部教授

岡山県出身。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官に。平成20年の中学校美術、高等学校芸術(美術・工芸)の学習指導要領改訂に携わり、2011年より現職。



山竹弘己
静岡県焼津市出身。鳴門教育大学大学院では陶芸を研究。1992年に教職に就き、2019年より現職。静岡市内の美術教員、県立美術館と連携したVTS鑑賞も展開。



江戸時代に生まれた南部鉄器を今も生かし続けるのは、職人が受け継いできた真摯で柔軟なものづくりの姿勢。強さと美しさを備える究極の生活工芸品。その圧倒的な魅力は今や、海外にも知れ渡っています。



▲南部鉄器について詳しくはこちら



interview

さん だい め きよ しげ
伝統工芸士 三代目清茂
八重樫 亮

Profile:
本名、八重樫 亮(やえがし あきら)。
1970年岩手県生まれ。
大学卒業後に(株)岩鑄に入社。
2011年に伝統工芸士の資格を取得、
それを機に「三代目清茂」を襲名。

伝統と革新。
その絶妙なバランスが、江戸時代に生まれた南部鉄器を今なお、人々の暮らしの中で生かし続けている。創業百十八年の歴史をもつ株式会社岩鑄。その工房で、「三代目清茂」として活躍する伝統工芸士、八重樫亮さんに話を聞いた。

「職人の道に入られたきっかけを教えてください。大学では、教員免許も取得されたとか。」

はい。英語と社会の教員免許をもっています。だけど、絶対学校の先生になりたいと思っていなかったわけではなく、たまたま入った大学が教育系だったというだけ。具体的な将来については、あまり考えていませんでした。

そんな中、学生時代にずっとアルバイトを続けていたフランス料理店のオーナーから「君は職人に向いているかもしれないから、ちょっと見に行ってみれば？」とオーナーの高校時代の先輩が取締役だった今の会社を勧められ、大学四回生の夏前にふらりと見学に訪れたんです。作業場では、細かな文様を一つ一つ鉄器に

くかと思えます。

一方、サイズなどに関しては、大きなものが重宝された以前と比べ、ここ十五年ほどは「リットルも入れれば十分」という核家族が増えてきて、小さいものが主流になってきています。また熱源も、七輪で火を起こしていたのが、ガスになり、IHになり……。その変化に伴い、鉄瓶の形も底が丸くすぼまったものからIH対応の平底まで、さまざまなものが開発されてきました。

こうした進化のおかげで、南部鉄器は今なお人々の暮らしの中で、使われ続けています。ただ型を守るだけでなく、時代に沿って進化を促してきたその柔軟な姿勢こそが、振り返れば「伝統」だと思えるようになりました。

「伝統工芸士「三代目清茂」となり、作品づくりに変化は？」

正直、経験を積むほどに資格は関係ないと思うようになりました。「伝統工芸士」も会社の勧めで取得しましたが、タイトルが付けば付くほど、肩の荷が重くなるばかり(笑)。

ものづくりについても、私の場合は、作品というよりはまず商品、生活

刻む職人の姿を見て、いきなり「これだ！自分もやってみたい！」と思いました。

すぐに会社にお願ひし、夏休みにインターンとして二週間、働かせてもらいました。その時ひたすらやったのが、「こしき」と呼ばれる小型の溶解炉を使って鉄を溶かす作業。真夏にもすごい熱風で、本当に暑かったんです。今思えば「一番キツイ仕事をやらせれば、嫌になって逃げ帰るだろう」という、師匠の考えだったのかもしれない(笑)。

「伝統を受け継ぐ」とはどんなことでしょうか。

南部鉄器はある程度、出発点である茶の湯釜に則した進化を遂げてきています。例えば、鉄瓶のふたには今でも茶の湯釜と同様に蒸気を逃す穴がなく、湯が沸いてきたらふたをずらし使います。そうした部分には、使いづらさがあるかもしれませんが、これは鉄瓶が生まれた歴史的なところを加味すれば、ご理解いただける点

↓

工芸品をつくっている、というスタンス。工芸品という鑑賞用の美術工芸を思い浮かべる人が多いのですが、私の場合は「使ってもらってナンボ」。飾られるだけでは嫌なんです。なので、心掛けたいのは、つくり手中心ではなく、使い手中心のものづくり。自分の先に、常に使い手がいることを意識しています。

ただ、周りからは作品を見ただけで、「これは〇〇さんがつくったものだよね」と言われることがあります。鉄の肌合いや雰囲気、アラレ文様のとんがり方や大きさ、向きなどで、見る人が見れば分かるというもの。我々職人は、これが自分の味だと分



ひらけ!

ミュージアム・
エデュケーションの
トピラ

漫画の視覚効果を体感し
表現の可能性を広げる。

当館は、日本で唯一マンガ学部を擁する京都精華大学が所蔵する約三十万点の資料を管理し、漫画文化の研究・発信を行なう総合施設です。「マンガアシスタント体験」は、二〇〇六年の開館以来実施しているワークショップの中核で、「多彩な表現技法にふれ、漫画や自己表現の可能性を感じてほしい」という思いからスタートしました。参加者は講師の指導のもと、あらかじめ人物や吹き出しが描かれたワークシートに、漫画家が描画に使用するGペンや筆ペンなどを使い、背景の色を塗ったり、線を書き加えたりすることで、読者の目を引き付ける視覚効果を加えていきます。例えば髪の毛のツヤを表現したり、疾走時のスピード感、物体の浮遊感を加えたりすることで、各シーンに緩急が生まれるのです。や

京都国際マンガミュージアム マンガアシスタント体験

教育普及(ミュージアム・エデュケーション)とは、美術館や博物館で展示と並行して行われている、美術や文化を主体的に学ぶことを支援するための様々なプログラムのことです。今回は、漫画表現を通して創造力や伝える力を刺激する、京都国際マンガミュージアムの「マンガアシスタント体験」について、同館の研究員で講師を務めるユーさんにお話を伺いました。

することは割とシンプルなのですが、描き方ひとつでさまざまな表現ができるので、参加者同士で違いを楽しみながら進められる活動でもあります。背景作画は通常、漫画家のアシスタントが行なうため、漫画・アニメーション業界の「職業体験」という側面でご評価くださる学校も多いと感じています。

漫画の表現活動が
伝える力を育むきっかけに。

本体験の教育利用の多くは、地元のほか、修学旅行で他府県から来られた学校の体験学習。誰もが慣れ親しんでいるコンテンツであること、また絵の得意・不得意が影響しにくいいため、生徒さんが生き生きと楽しんでる姿が印象的です。先生からも「普段の授業より集中力が高い」という声をよくお聞きしますね。

当館での実施を基本としていますが出張講座も可能です。私自身はフラン

私たちがつくった商品は、棚に並んだ状態ではまだ八〇%。お客様が手に取って、暮らしの中で使ってください、ようやく完成品となります。ですから自分でつくったものが、修理のためにこちらに戻ってきて、何年か振りに再会できると本当にうれしいもの。同じようにつくっても、使われ方によってさまざま、みんな違う顔つきになって戻ってくるんです。

子どもたちには、筆箱の中にも入っている、お気に入りのペンを想像してもらおうといいかもしれませんが、手になじんで、それでないとっくりこない。壊れたら修理してでも使い続けたいという。そんな相棒みたいな存在です。長く使って、自分だけのお気に入りのペンを育てる。それはとても、豊かな経験ではないでしょうか。



職人の強みは、最初から最後まで、全部ひとりでつくれること。お客様から「こういうものが欲しいけどつくれる?」と聞かれたら、話を伺っただけで、「つくれますよ!」とその場で答えることができます。これは、自分の中にいろんな技術と経験が蓄積されているからこそ。頭の中で七割がた、製造工程をイメージすることができるところです。もちろん実際は、職人のプライドで「できます!」と答えてしまっただけから持ち帰り、あとの三割、必死に試行錯誤。お客様の要望に応えようとして、新しい技術や発想が生まれることもあります。南部鉄器ならどんなものでもつくれる!自分が目指すのは、そういう腕のある職人ですね。

株式会社 岩鑄



創業明治35年。江戸時代、茶の湯の進展とともに花開いた南部鉄器の伝統を守りながら、デザインから販売まで一貫生産体制を整え、現代の暮らしにもなじむ製品づくりに取り組む。鉄器の製造工程を間近に見ることのできる岩鑄鐵器館、県内一の品揃えを誇る展示ギャラリーも併設。近年では、鉄器に着色する独自の技術を開発し、これまでにないカラフルな鉄器を製造することで海外へと進出。世界の「IWACHU」として、常に挑戦を続けている。

岩手県盛岡市南仙北2丁目23-9
TEL: 019-635-2501 <https://iwachu.co.jp/>
【岩鑄鐵器館】 ●売店/8:30~17:30 ●定休日/火曜日、12月31日、1月1日



取材日には海外団体の参加も。表現の違いを学びながら熱心に取り組んでいました。



読者の視線をどう引き付ける? プロと同じ画材道具で背景描写を学びます。



ユー・スギョン
京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学
国際マンガ研究センター
研究員



京都国際マンガミュージアム
京都市中京区烏丸通御池上ル
(元龍池小学校)
TEL.075-254-7414
<https://kyotomm.jp>



カラフルいろみず

はじめて出会う色に、心と体が動きだす



定番の題材として知られている色水を使った造形遊びに工夫を盛り込み、より楽しく、生き生きとした実践をしているのが高橋英理子先生です。豊かな“色の表情”を味わうための場づくりの方法や、学びを深める振り返りなどについてお聞きしました。

岡山大学教育学部附属小学校 高橋 英理子 先生

“色の表情”に触れるために

今回の題材は色水づくり。教室ではなく校庭で実践しました。日の光を浴びてキラキラと輝く色水は、それだけで心が躍るもの。影にも独特の味わいがあります。屋外で活動することで、さまざまな“色の表情”に触れてもらいたいと考えました。

校庭にはテーブルを四つ、離して配置しておきました。用意した色は、赤・青・黄・緑の四色のみ。一つのテーブルにつき一色の絵の具をお皿に出した状態で置いて、「赤のテーブル」「青のテーブル」などをつくっておきました。こうすることで、自らつくりだしたい色を選び、好きな分量だけ絵の具を使うことができると考えたのです。

その他、絵の具をつけるための綿棒、ペットボトル、透明カップを用意。カップは思い付いた色水づくりをどんどん試したり、いろいろな並べ方を工夫したりできるように大小合わせて約三〇〇個用意しました。またカップを並べて楽しむためのテーブルも設置しています。

思い思いの方法で色を楽しむ

導入では、ふたの内側に絵の具を塗って水を入れたペットボトルを用意しました。これを振ると、みるみるうちに水に色が広がります。子どもたちは驚きます。種明かしをして「やってみたい！」という気持ちを引き出した後、すぐに活動スタートです。

ペットボトルは一人につき二、三本にしたので、次の色水をつくるにはカップに移さないとはいけません。色水がいくつかできてくると、混ぜる子どもがでてきます。「色が変わった！」。いよいよ子どもたちが動きだしました。友だちの色水と混ぜたり、できた色水をさらに混ぜたり……。混ぜすぎて濁った色も、その子にとっては自分がつくった大切な色。

色が増えると、活動はさらに広がります。似た色を集める子どもや、自分なりの色の順番に並べる子ども、それぞれの色に名前を付けてオリジナルのジュース屋さんを始める子どもや、いろいろな場所に色を並べて飾っている子どももいました。

「たっぷり色を楽しんだら」「色めぐりツアー」へ。お互いの活動を紹介します。

学びを深める“振り返り”

最後に「今日の授業でどんなことに気が付いた？」と質問を投げかけると「赤と青を混ぜると紫になる」「新しい色が見つかった」「似ているけど違う色ができる」「などさまざまな声がありました。みんなで授業を振り返り、見つけたこと

を確認しました。授業の最後に振り返りを行うことで、発見したことを確認して納得する。これを欠かさず行うことで、楽しかったで終わらず、学びが深まると思っています。

活動の流れ

② 色水を混ぜる

色水ができたらカップに移し、水で薄めたり、混ぜてみたり。色をつくるためのペットボトルの数を少なくすることで、友だちとの色水の分け合いっこや交換も生まれました。

④ 色めぐりツアーでみんなの色を見る

色水の入ったカップが並べられた階段や、カラフルなジュース屋さんなど……。校庭をぐるっと回って、みんながつくった色と、その楽しい並べ方を鑑賞しました。

① ペットボトルを振って色水をつくる

好きな色の絵の具が置いてあるテーブルに移動し、色水をつくります。ペットボトルのふたに綿棒で絵の具を塗り、ふたを開けてシェイク。振っているだけで楽しくなっちゃう！

③ 色水を楽しむ

カップを並べるテーブルは、色水が注ぎやすく、上からカップを並べやすいよう低いものにするのがポイント。また白い模造紙を貼って、色と影が綺麗に見えるよう工夫しました。

指導計画	
時間	領域
2時間	A表現
材料・用具	
ペットボトル、透明なブラカップ、共用の絵の具、綿棒、平皿	
題材の目標	

- 知識及び技能
色水をつくり、並べたりする活動を通して、できる色や色の違いに気づき、混ぜ方や並べ方を工夫してつくる。
- 思考力、判断力、表現力等
色水の色から自分のイメージを持ち、造形的な活動を考えるとともに、つくった色や造形的な活動の面白さや楽しさを感じ取る。
- 学びに向かう力、人間性等
色水をつくり、思い付いたことを試したりする楽しさを味わい、意欲的に活動する。

Message



私は「過程を大切にすること」を心に掛けています。長い人生のなかで一度も失敗せず、成功体験だけを重ねられる人は、まずいないのではないのでしょうか。ほとんどの人が何かしらの困難にぶつかり、それを乗り越え成長していくと思うのです。ですから、結果だけでなく、「結果に至る過程で何を学んだか」をしっかり見つめ、失敗を認めながら人を育てることが重要だと考えています。

失敗から学び成長する力を身に付けてほしい



たどる子どもが「失敗した」と言ってしまったものを捨てようとしても、私は絶対に捨てません。とことん試し、つくり、つくりかえ、悩みながら納得のいくものをつくっていく。そんな「生きる力」につながる経験を、図工を通して積み重ねてもらいたいと思っています。

パレットから



パレットには八通りの緑、十二通りの茶色があります。自分の表したいことに応じて色の違いや明るさ、鮮やかさなどを確かめながら色をつくったようです。これまでの経験を基にしながら、自分の表したいことを表すために知識や技能が活用されていることが分かります。

今回は、令和2年度版図画工作科教科書5・6上の題材「**絵の具スケッチ**」を取り上げます。外に出かけて、小さな画用紙にかけた一片のスケッチ。いくら小さくても、そこには子どもの資質・能力が表れています。**作品やパレット、子どもの視線**などから、**発揮した力を見ていきましょう。**

奥村先生の
子どもの
見方

#8



子どもの視線から



画用紙から少し距離をとって自分の絵を見つめています。「つくる世界」から自分を外して、「うまくかけたかな?」「いい感じになったかな?」と他者の目で絵を見直す行為です。「小さな紙」という手立てが、「見直す」という自己調整的な思考を活性化しています。

視線は遠くにあるのに、筆は画用紙に付いたまま。絵の具を付けた筆で紙に直接かくことは、「油断」を許しません。「絵の具で直接スケッチする」という手立てによって、子どもの「集中する態度」が生まれています。

ピンク色の花びらの周りに、筆先を細くしてかかれた「灰色の線」が何本も見えます。花びらの散る動きです。よく見ると「太い筆で液体粘土を塗ったとき」にできた「筆跡の形」がなぞられています。「灰色の線」をかいたときに「筆跡」に気付いたのか、それとも「筆跡」から「灰色の線」を思い付いたのか、いずれにせよ、この子の表現の工夫です。



黄緑、緑、濃い緑など葉の色がき分けられています。一つの木に、異なる葉の色があるということは、おそらくかいたのは四月から五月、新緑が徐々に濃い緑に変わる頃でしょう。「この時期にだけ生じる葉の色の違い」という造形的な特徴を捉えています。



作品から



太い枝と細い枝があります。太い枝の先端は四角く切り取られています。そこから細い枝が何本も伸びています。せんていされた太い枝から細い枝が伸びて、そこから新緑の葉が出ているので、よく「植物の構造」を造形的に把握しています。

まとめ

スケッチ^{*1}は、「対象との対話」を通して、子どもが「気付き」を生み出す学習です。小学校では「何かをかく」というよりも「かく行為そのもの」を楽しむことが大切です。紙の表面をスイスイと動く筆先の感覚や、小さな紙にメモするようにかけることなども表現の喜びにつながっています^{*2}。さまざまな指導の工夫が資質・能力を高めていることが分かります。

文：奥村高明

日本体育大学
児童スポーツ教育学部
教授

1958年宮崎県生まれ。小中学校教諭、美術館学芸員の後、文部科学省教科調査官として学習指導要領の作成に携わり、現職。日本文教出版Webマガジン「学び!と美術」執筆者。

〈今号のひと言〉

柴山清風(1901~1969)を見に行きました。昭和の常滑を代表する陶彫作家、原型師の一人です。美術史的に定位されていませんが、お勧めです。



*1: 中学校美術科の学習指導要領解説で、スケッチは次の3点にまとめられています。本稿で該当するのは①です。

①自然や人物、ものなどをじかに見つめて、諸感覚を働かせ、様々な視点から対象を捉えて描くスケッチ
②見たことや思い付いたアイデアなどを描きとめ、イメージを具現化するための発想や構想を練るスケッチ
③伝える相手の立場に立って、伝えたい情報を分かりやすく絵や図に描くプレゼンテーションとしてのスケッチ

*2: 鉛筆でかく場合は、画用紙をこする音やストロークのリズムなども大切です。

(参考)「音色鉛筆で描く世界」(コクヨデザインアワード2018より)
<https://youtu.be/a7bmzvbexkw>

※写真は全て、令和2年(2020年)度版小学校図画工作科教科書「図画工作5・6上」p.8・9に掲載されているものです。





伊藤若冲で遊ぶ～動植絵の世界～

楽しみながら鑑賞し、日本美術の扉を開ける



中学1年生にとって日本美術は、とすれば“古めかしく、難しいモノ”。
「ならばゲーム方式で、楽しみながら学んでもらおう！」
そう考えたのが、京都市立洛北中学校の湯口みゆき先生です。
驚きの声や笑い声を響かせながら、みんなで見方を深めていく、
授業の工夫についてお聞きしました。

京都府 京都市立洛北中学校 湯口みゆき先生

なぜ一年生で若冲なの？

若冲を選んだのは、思春期の生徒にとって親しみやすい作風だと考えたからです。政治の重圧から解放され自由な空気に満ちていた「江戸時代の京都」で生まれた若冲の作品は、挑戦的かつ野心的なものばかり。分かりやすい表現が用いられているところ、当時は新しい手法がこれでもかと盛り込まれ発見が多いところなどが、中学一年生にとっても見やすく深めやすいと考えました。

活動時は、四人一組の十班に分かれます。自然と役割分担ができて、互いに意見を出し合うことで自分にはない見方に出会い、考えが広がったりするよう環境をつくりました。

数当てゲームで作者の思いに近づく

まずは班ごとに、三分間で、池辺群虫図の中に描かれているカエル、アリ、オタマジャクシを数えます。カエルは十一匹、

アリは三十三匹と、落ち着いて数えれば正解できる数の生き物を選んでいきます。一方のオタマジャクシは二八匹という大ボリュウム。三分では到底数え切れない数の生き物を紛れ込ませることで、どうやって数えるかといった話し合いが生まれ、生徒同士の緊張もほぐれました。

数の答え合わせをした後は、なぜ若冲はこれほど細かく絵を描こうと思ったのだろうかという問いかけ、作者の思いについて考える時間を取りました。生徒からは、「描くのが好きだったから」ありのままの自然を描きたかったんだと思うなどの発言が。ゲームをきっかけに興味をもたせ、次の活動へとつなげていきました。

鑑賞を深める「言語活動」

続いて、動植絵を鑑賞し、タイトルを付ける活動へ。十班それぞれ異なる作品を割り当てました。タイトルを付ける際には、感じたことなどをさまざまな人に分かりやすく短い言葉で伝

活動の流れ

② 動植絵を鑑賞する



班ごとに異なる動植絵と異なるワークシートが配られました。ワークシートには、「色彩は?」「季節は?」など各作品に関する問いかけが書かれています。

① 生き物の数を数える



4人1組の班をつくり、3分間で、絵に隠れている生き物を数えていきます。ゲーム感覚で楽しんだ後は、作者の思いについて考えます。

④ タイトルを発表する



タイトルを黒板に貼り発表へ。独自の視点で物語を想像し、各班が豊かなタイトルを披露しました。生徒たち、それぞれに共感や疑問などが生まれ、考えの幅が広がりました。

③ グループでタイトルを付ける



問いかけに沿って作品の様子をまとめながら、各班で鑑賞を深めていきます。対話をしながらタイトルを決めて、配布された短冊に書き込みます。

指導計画

時間	領域
2時間	B鑑賞

材料・用具
作品写真、若冲の紹介動画、パワーポイント、ワークシート

題材の目標

- 知識及び技能
形や色彩から感じる感情を理解し、形や色彩の特徴を基に作品の印象を捉える。
- 思考力、判断力、表現力等
動植絵のよさや美しさを感じ取り、構図や色彩等から作者の心情や表現意図などについて考え、鑑賞する。互いに感じたことを言葉で表現することで、さまざまなもの見方や考え方を広げる。
- 学びに向かう力、人間性等
日本美術鑑賞の楽しさを知り、郷土の美術への関心をもち、意欲的に取り組む。

Message



美術は、多様な考えや表現が認められる、唯一とめられてよい教科だと思っています。決まった答えを述べることや、みんなと同じであることが評価されがちな学校という社会において、ちょっと珍しい、貴重な教科であると考えています。だからこそ、めいっばい面白く！常に生徒を飽きさせない工夫を盛り込み、メリハリを付けて、楽しく授業をすることを心掛けています。楽しむ中で、自分や他人

えられるよう、多角的に見て考えることが必要となります。自分たちの言葉で表すために、より深い鑑賞ができると思いつき取り入れました。ワークシートを埋めながら、「このトサカ、帽子に見えへん?」「ホンマや!」「何話してるんかなあ?」と目を輝かせて話し合う生徒たち。対話しながら作品の見方を深めていくことで「騎馬戦」「明るく輝く鶏婚(けいこん)生活」など、次々と独創的なタイトルが生まれました。

対話などの言語活動をふんだんに盛り込むことで、鑑賞は楽しいものだということを味わえ、日本美術入門のきっかけを作ることができたと考えています。また、地元ゆかりのある作家であることもポイントです。京都出身である若冲の作品は、市内の博物館やお寺など、いたるところで見られます。折に触れて思い出し、生涯をかけて作品のよさを味わうことで、人生が豊かになるとよいなと思っています。

認め合うことが豊かな社会につながる



の個性を見付け、違うことよさを知り、褒め合い認め合うということを感じてもらいたい。こうした経験が、人と人との関係を耕し、つながりをつくり、やがて国境や文化、宗教などといった、あらゆる価値観を超えた平和や、豊かな社会をつくっていくのだと思っています。



授業で使ったワークシートがwebよりご覧いただけます。



副部長 / スケッチ担当

今井未知

イラストレーター。女子美術短期大学造形学科(当時)卒。バリのアトリエ・コントロールボウにて銅版画を学び、2000年よりフリーのイラストレーターとして活動。

イザ 桃太郎 を探して

そぞろみ部

可愛らしい
ブロンズの桃太郎



なんと鬼の上に
座っている!



消火栓のフタ



水道局の切符



駅前でおばあさんに
送られて出発!



ところが足を進めると
至るところに鬼の痕跡が...



鬼に削られた桃太郎



ぐるぐる巻きの
テープに
鬼の気配



小川に置かれた石に残されたのは
鬼の爪あと?



桃絵馬



吉備団子
= きびだんご



僕はだれよりも
強いんだ!

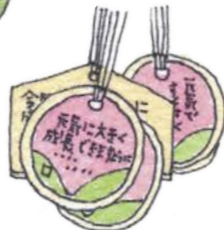
未来の桃太郎
との出会い



犬をつれた人



桃みくじ



桃絵馬

釜をたいた時に
鳴る音で吉凶を
占う
「鳴釜神事」
の様子



そぞろみ部とは・・・

いろいろな場所をそぞろ歩きながら造形的な見方や考え方を
使って身の回りのあれこれを眺めてみるまったり系部活動。
ここでは、部長と副部長がそれぞれの視点で切り取った形や
色やイメージを言葉とイラストでレポートしていきます。

今回のテーマは昔話の「桃太郎」。犬、猿、雉をお供に鬼退治に向かうス
トーリーは恐らく誰もが一度は耳にしたことがあるだろう。基本的には想
像上のお話だが、実は全国各地に桃太郎ゆかりの地が存在する(諸説あ
り)。今回はその中から岡山県岡山市を訪問。いつもとは少し趣向を変
えて、そぞろみ部の4人組による桃太郎探訪記をつづった。



部長 / テキスト担当

市川寛也

群馬大学学術研究院准教授。妖怪研究者。各地で「妖怪探集」と称するまち歩きワークショップに取り組む。今年の1月より「河北新報」にて「微風旋風」を連載中。

増殖する桃太郎

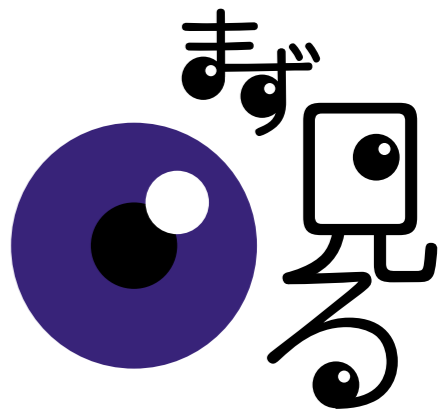
岡山駅に降り立てばそこかしこに桃太郎が見つかる。駅の構内にある「備前焼ガチャ桃太郎」は岡山を訪れる度に課金してしまう。今回は鬼のように立てて入手。つまようじを刺せば机の上でも鬼退治ができる!? 駅前広場には郷土の偉人の如く桃太郎の銅像が立っている。足元には犬と猿、肩には雉が乗り、昔話から抜け出したようなたたずまいだ。遠くを望むその先には鬼が島でもあるのだろうか。その下に座っていたおばあさんに送り出してもらっていざそぞろみへ。駅前商店街のアーケード入口に浮かぶ大きな桃は、今にも何かが飛び出しそうに膨らんでいる。大通りを走るバスのラッピングには自転車に乗る桃太郎。消火栓の蓋に描かれた桃太郎はホースを抱えて放水していた。中央分離帯に並ぶポールの先端も桃の形になっている。とは言え今回のそぞろみ部は、町中にあふれる桃モチー

桃太郎の舞台を歩く

次に一行が向かったのは吉備津神社。桃太郎のモデルとして知られる吉備津彦命を祀る備前の一宮だ。駐車場脇の茶屋では赤鬼が「桃太郎麦茶」を売っていた。名物の吉備団子で腹ごしらえをして境内へ。石段の欄干や石灯籠に乗る擬宝珠か桃の実か。屋根の上では鬼瓦もにらみをきかせる。このそぞろみスポットは吉備津彦によって退治されたとされる鬼「温羅」を祀る御釜殿。足を踏み入れると火のたかれたかまどが厳かな雰囲気醸し出す。炎のゆらめきに幻想と現実がオーバラップする。続いて訪れた吉備津彦神社は備前国の一宮。いつの間にか国境をまたいでいたらしい。ここでは極彩色の桃太郎とチャーミングな表情のお供たちがお出迎え。桃の絵馬やおみくじも世界観を演出する。昔話そのものに形はないが、目の前に広がる風景と重ねることで拡張現実が立ちあがる。あと

当代昔話転生

そんなことを考えながら歩いてみると「桃太郎外伝」と書かれたポスターを発見。岡山各地を巡りながら「鬼」を集めるGPS運動型のアプリケーションだ。ちなみに吉備津神社には「鳴釜神」が出現。なるほど現代の鬼は画面越しに見えるのかもしれない。もちろん、イメージネーションを駆使すれば肉眼でもそぞろみ可能。物語の出発点は岡山城。城下を流れる川にはビーチポートが停泊中。洗濯するにはやや川幅が広いが、対岸には枝を刈るおじいさんの姿も。吉備津彦神社で出会った男の子は「誰よりも強いんだ」と教えてくれた。犬の散歩もここでは特別な意味をもつ。猿と雉は銅像のまま。金棒をほうふつとさせる歩道の車止めから見えざる鬼の存在を想像してみる。柱に巻かれた黄色と黒の虎テープ。爪跡のようにも見える道路の傷。路地のグラフィティもしまいは「鬼文字」に見えてくる。鬼が島は近いぞ。



第三回

教科書に載っている、あの作品。誰もが知っている作品や、初めて出会う作品。いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみよう。それまで見えなかった作品の一面が見えてくるかもしれませぬ。



書体とは、意味という情報を運ぶための透明な存在です。あたりまえでなくてはならない。

見過ごすワケを考えてみる

Japanese character と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか。青いネコ？ それとも黄色いネズミ？ ただしこの英語の意味は、「日本語の文字」です。Character の語源は「際立った(示差的な) 刻印」。要は、パッと目を引く記号、という意味です。「キャラ」も文字も、どちらも Character なのです。

文字は、まず見えてしまう。文字に携わるデザイナーは、この文字の力を強めることもあれば、弱めることもあります。力を強めた文字、例えば看板や広告に踊る奇抜な文字の面白さを認識することはたやすい。しかし、まさに今あなたが読んでいるこの文字の連なりはどうでしょう。「文字」文字を、面白いなどといった観察しては文章が読めません。書体というある様式で統一されているからこそ、文字そのものの面白さは背後に隠れて、意味がスムーズに伝わるようになっていきます。

いわゆる本文書体(ちなみにこれは、「いろは25イチョウ」という書体です)は、目立ってはいけません。文章を読ませるために、文字の力を弱めなくてはならない。書体づくりとは、いわば、あたりまえのデザインです。書体とは、意味という情報を運ぶための透明な存在です。あたりまえでなくてはならない。観察対象として細部に目を留まらせることなく、純粋な運動でなければなりません。こう考えてみると、「デザイン」という言葉に対する考え方が更新されるのではないのでしょうか。ここでデザインとは、見た目の奇抜さや新しさをつくることではなく、透明な運動をつくること、と言い換えられることになるでしょう。

私たちの身の回りには、生活が円滑に進むように、あたりまえのデザインが無数に潜んでいます。いちいち意識しなくてよいようにつくられている透明なもの。純粋な運動だけを示しているもの。例えばそれは、貨幣のデザインです。五円玉に刻印されているのは算用数字が漢数字か、とか、お札の人物は誰か、というクイズがよくあるのは、あたりまえ過ぎて、ふだん誰もそれをまじまじとは見ていないからです。そして、貨幣というものが純粋な運動だからです。ピカピカしているとか、独特の汚れがあるとか、記されている番号がゾロ目になっているといったような特徴でいちいち価値がついてしまっはお金が回らなくなる(そういう収集趣味もあります)。貨幣はデザインを意識させない。あるいは、貨幣は「見てはいけない」。そのように私たちは慣らされています。

成相 肇 なりあい・はじめ
東京ステーションギャラリー 学芸員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員を経て、二〇一二年から現職。
主な企画展に「文字順造の世界」、「ディスカバー・ディスカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の画」など。
〈今号のひと言〉
子どもが出してくれる疑問の中には時折面白いものがあるのですが、きちんと回答しようとする最後まで聞いてもらえず、こちらもつい、その出された疑問そのものを忘れてしまいがちです。最近よかったのは、「目は、ふたつあるのになぜ物はひとつにみえるのか」です。



東京ステーションギャラリー 展覧会情報
「奇蹟の芸術都市バルセロナ」
(二〇二〇年二月八日〜四月五日)



ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を選んでご紹介します。

今回は、「指導のABC」p.4をピックアップ!

「あのね」という心のメッセージ

「あのね」で始まる言葉は、自分の存在を認めてほしい、好意をもってほしいと思ったときに発せられます。子どもは、「あのね」の言葉のあとにつづく「真意」を先生に聞いてもらいたいのです。

4月当初、1年生が校門の前で泣いています。泣きじゃくって言葉になりません。そんなとき、先生から「あのね……」と、きっかけの言葉を投げかけると、子どもは不安な気持ちを「あのね。今日ね。……忘れ物しちゃったの」と伝えやすくなります。

子どもから「先生、あのね」と言って、いろいろ話しかけてくれるようになったら、互いに「好きだよ」という信頼関係ができたのと同じです。そして、子どもに「先生も、好きだよ」と言葉や態度など全身で伝えることが大切です。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ



ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。また、冊子をお送りすることもできます。



著者紹介
あべひろゆき
阿部宏行

1954年生まれ。北海道教育大学岩見沢校教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員(平成29年)、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査(小学校図画工作)」(平成29年)などを歴任。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作教科書



中学校美術教科書



高等学校芸術科美術教科書

2020年度へつなぐ 小学校教科Web

図画工作の
特設Webサイト

スマホでも!



収録コーナーのご紹介



図画工作の教科書、授業で使っていますか? 基本の使い方から意外と知らない活用術まで、山田先生がまるっと教えます!

図工のお悩み相談室

図画工作の授業で、先生方がもつ疑問やお悩みに、全国のベテラン先生がお答えします。



指導者用デジタル教材 サンプルのご紹介

R2年度版図画工作教科書教師用指導書「指導者用デジタル教材」のサンプルをご紹介します。



【Web マガジン】

●学び!と美術
奥村高明先生がおくる
図画工作・美術教育の最前線。



【機関誌・教育情報】

●図工のみかた
新学習指導要領について子どもの姿を
基に分かりやすく語ります。

●ABCシリーズ

先生の心得から造形教育まで、
4コマ漫画で解説。



【学習指導要領関連】

●学習指導要領新旧対照表
現行学習指導要領と新学習指導要領の
対照表を掲載しています。

●文部科学省情報

文部科学省発信の図画工作科関連
の情報を集めました。

日文 図工

検索

詳しくはWebへ!



中美チュービ

中学校美術の先生
応援Webサイト

スマホでも!



収録コーナーのご紹介

サイトオリジナル

大橋功先生★美術のチカラ ～美術による学びの成長ストーリー～

中学校美術による学びのチカラを、3年間の生徒の成長する姿に重ねて、大橋功先生と一緒に考えていく連載コラムです。

各界の方々にインタビュー つながる美術

美術教育とのつながりを美術教育以外の視点から各界で活躍する人々にインタビュー。あなたがもし美術の授業をするなら?などを聞く。

「形 forme」をさらに深める

中美な人

～もっと知りたい指導の工夫～

「学びのフロンティア」をWebでも展開します(中学校のみ)。

「村上センセイが行く!」

全国美術室探訪
隣の中学校は何をしているの? 動画版
好評連載コーナーの動画版。村上先生と全国の美術の先生との対談をお見せします。

iPhoneアプリ「中学美術先生のためのABC」をWebにも展開

指導の悩みABC ～先輩からのアドバイス～

指導や授業での悩みや疑問を取り上げ、問題解決へのアドバイスを提案します。

授業づくりのABC ～題材のポイント～

表現・鑑賞の題材ごとにポイントを絞った解説を掲載します。

LINE@
はじめました



「友達募集中」
登録は、こちらのQRコードから!

普段お使いのLINEに
「中美(チュービ)」の
更新情報等をお届けします!

日文 中学美術

検索

詳しくはWebへ!

